氏　　名	二　宮　早　苗
学 位 の 種 類	修　士（看護学）
学 位 記 番 号	修　士　第　１３４　号
学位授与年月日	平成２２年３月２５日
学位論文題目	分娩経験のある女性の腹圧性尿失禁に対する サポート下着の応用

別紙様式３

論　文　内　容　要　旨

※整理番号	134	(ふりがな) 氏　　名	にのみや　さなえ 二宮　早苗
修士論文題目	分娩経験のある女性の腹圧性尿失禁に対するサポート下着の応用		

【目的】

分娩経験を有し、現在腹圧性尿失禁の症状がある女性を対象に、サポート下着着用の有用性を検証することを目的とした。この検証に際し、次の４つを仮説とした。

1. サポート下着の着用は膀胱頚部の挙上および支持に有用である。
2. １週間のサポート下着着用では、尿失禁症状は改善されるが骨盤底筋群は強化されない。
3. サポート下着の着用に１日 6,000 歩以上の歩行を組み合わせ、12 週間継続することにより、骨盤底筋群は強化され、尿失禁症状も改善される。
4. 12 週間後、骨盤底筋群が強化された場合には、サポート下着の着用を中止しても尿失禁症状の改善効果は持続する。

【研究方法】

分娩後３年以内の産後群 10 名と、分娩後３年以上の一般群 11 名に対し、16 週間の縦断的方法による準実験研究を実施した。実験用具のサポート下着は、骨盤内臓器の挙上効果、歩行により骨盤底筋群の強化作用が期待される W 社製市販品を使用した。腹圧性尿失禁では、骨盤底筋群の弛緩により膀胱の下垂が生じることから、実験介入により膀胱頚部が挙上され、尿失禁症状が改善することを評価基準とした。膀胱頚部の位置は、縦型オープン核磁気共鳴画像装置（Magnetic Resonance）により評価し、尿失禁症状は 60 分尿失禁定量テスト、排尿生活記録、国際尿失禁症状質問票日本語版および腹圧性尿失禁評価票により評価した。

【結果】

1. サポート下着の着用により、産後群、一般群の全例において膀胱頚部が挙上され、さらに腹圧負荷による膀胱頚部の開大も抑制されることが明らかとなった。
2. １週間のサポート下着着用では、産後群において腹圧性尿失禁評価票のスコアは改善されたが、その他の尿失禁症状および一般群では、明らかな改善を認めなかった。また、いずれの群にも膀胱頚部の位置に変化を認めなかった。
3. サポート下着の着用と歩行を継続した結果、一般群では膀胱頚部の挙上を認めたが、産後群では変化がなかった。尿失禁症状はいずれの群にも改善を認めた。
4. サポート下着の着用を中止した結果、産後群では尿失禁症状の改善効果が持続したが、一般群では効果の持続を認めなかった。
5. サポート下着の着用と継続に関する質問の結果、研究対象者の 100％が肯定的であった。

【考察】

今回の検証の結果から、サポート下着の着用は、腹圧性尿失禁の改善に有用であることが示された。また、サポート下着の着用１週間では明らかな尿失禁症状の改善は認められないが、着用と歩行を 12 週間継続することにより改善を認めたことから、その改善効果は、骨盤底筋群の強化に起因するものが大きいと考えられた。しかし、膀胱頚部の挙上と尿失禁症状の改善に関連性を認めなかったことから、今回の評価方法では骨盤底筋群の強化を明確に検証することはできなかった。今後はさらなるデータの蓄積と、骨盤底筋群の強化に関する評価方法の再検討が必要であると考える。

【総括】

サポート下着の着用は、８割の者に有用であることが認められ、継続実施が容易な方法であることから、現代女性のニーズに適合した有用な方法であると考えられる。腹圧性尿失禁に対するサポート下着の応用は、看護実践のひとつの方法として活用が期待できる。

（備考）１．研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。（1200 字程度）
　　２．※印の欄には記入しないこと。